

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	個人
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>反対もしくは慎重に進めるべきである。</p> <p>まず、客観的に、現在の光アクセス網の普及率とはびぬけて世界1だと思えます。これは、政府をはじめ、キャリア、ベンダの方々のご努力と思い、高く評価いたします。いわば、世界最先端のインフラが、十分に安く自由に使える環境ができました。時間はかかりますが、今後は、これらインフラを使って、どれだけ世界に先行できるサービスやビジネスモデルをつくり、グローバルに展開できるかかと思えます。</p> <p>整備率を上げて100%にすることを単純に否定する人はいないと思うが、どうも高速道路の整備計画を髣髴してしまいます。そりゃ、田舎まで高速道路が張り巡らされたら、便利で地方格差も減り。。とかんがえますが、実際は、ほとんど利用数のすくない高速道路を税金を投入して整備してしまいました。いまでは、その維持管理にまで税金を投入して社会の重荷にもなっている物もあります。もともとインフラは、お金がかかり、その上でのサービスによって経済効果が生まれます。つまり、道路を作ることより、それをつかった産業の発展が重要です。安易にやったとしても、利用率の向上する理由が見当たりません。むしろヘビーユーザや必要性の高いユーザにはすでに普及していて、今からはアプリケーション、つまり利用のフェーズかとおもいます。やらなくてもいいというのではなく 優先順位は利用率の向上やサービスやビジネスの競争力の向上です。それから、ユニバーサルサービスと考える部分には、たぶんそれまでにはかなり減っていますが10%以下に関しては、国レベルでの普及を考えるべきです。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>2に関して、</p> <p>利用率向上は賛成。やり方は、料金の低廉化ではなく、サービスの創生に対する投資</p> <p>利用料金の低廉化に反対する人はいないでしょう。でも、すでに世界でビット当たりもっとも安いサービスを提供している日本で、明らかにミスディレクションする誘導型の質問に思えます。しかし、利用率向上の積極的施策をすべきには賛成です。いまや、インターネットの主戦場は、サービスやビジネスです。世界で一番発達したインフラを持つ日本から、アマゾンや Google に匹敵するアプリケーションの技術を持つ企業がどんどん誕生す</p>

ることが最優先事項です。利用率向上は、90%の普及率においても利用はわずか30%。誰が考えても90%を100%にあげれば 利用率が大幅に改善されるとは思いません。行政、医療、教育のブロードバンドネットワーク利用促進に他の官庁と連携して大きく投資すべきです。

いまは、グローバル企業同士の国を挙げての競争状態です。新幹線の売り込みでは日本政府も真剣にサポートしていますが、通信ビジネスも、システム化しており、より大規模で総合力がある必要があります。それは開放をしないのではなく、アプリからインフラさらにはオペレーションのノウハウまでもった巨大企業を日本が作れるかという命題です。

NTT 体制に関してですが、見直し反対

反対の理由は、国際競争と株主に対するアンフェアです。常に国際競争にさらされる通信業界は、競争が有利なように誘導すべきです。NTT 株の株主としては株式会社の NTT の経営に株主として以上の政策的な誘導はほかの株主に対してアンフェアです。株主は株主の利益を最優先にするべきであり、すでに十分な競争環境にあります。株主の利益を作為的に失いかねず、株式をわれわれに買わせておいて、それから利益を失いかねない施策を行うのはどう考えてもアンフェアで、現代中国政府の施策よりも悪いと考えざるおえません。繰り返しですが、むしろ総合力をシステムとして海外展開させることが最優先項目になっており日本の発展のためにも多くの国民がそれを望んでいます。